

播種後の天候がポイント！ 飼料用とうもろこしの効果的な窒素施肥

概要 Abstract

効果的な**窒素施肥**のポイント

- ✓ 畑の窒素肥沃度と例年の収量水準を把握。
- ✓ **播種後の降水量**で分施量を調整。
- ✓ 収量変動が大きい条件では、**分施時に想定収量を補正**。

ここが重要！

5月中
～5月下旬



播種
基肥施用

6月下
～7月上旬



7葉期
分施施用

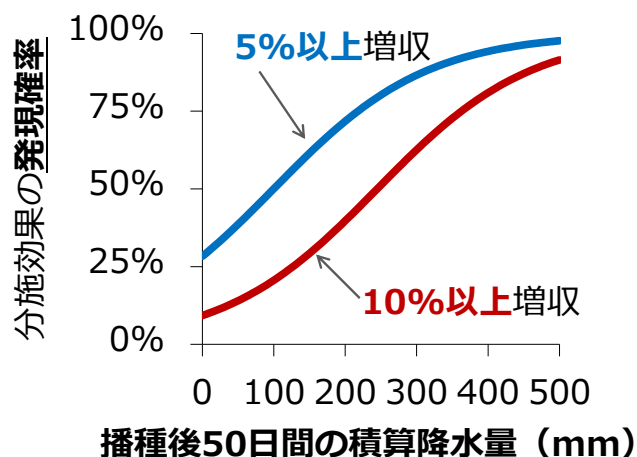
9月下
～10月上旬



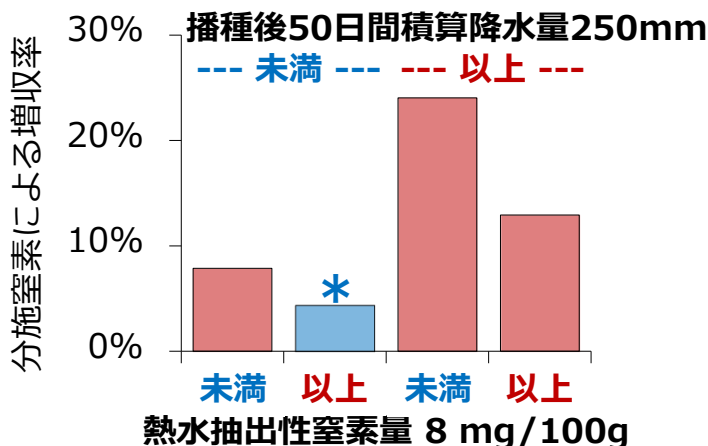
収穫

成果 Results

分施効果を最も左右するのは**降水量**



窒素肥沃度も分施効果に影響



* 分施効果は極めて小さい（増収5%未満）。

効果的な分施窒素の施用方法

播種後50日間の**積算降水量**
250mm

未満

以上

熱抽N含量
8 mg/100g

想定乾物収量*
1200 kg/10a

以上

未満

以上

未満

分施窒素
なし

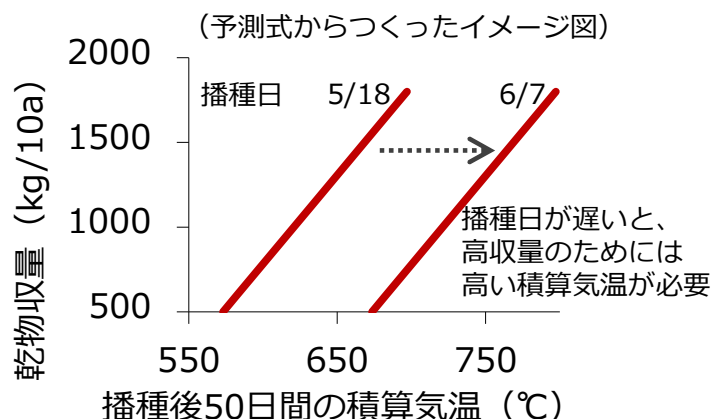
分施窒素量
現行の施肥対応

分施窒素量
6 kg/10a

* 右図参照。

根拠 降水量250mm以上の収量目安*

* 播種日と播種後積算気温による**予測式**で求めます。
(他の条件では、各畑の平均的な収量)



普及 Dissemination

- ・ 播種後の天候に合わせて、効果的な窒素施肥ができます。
- ・ ふん尿を施用するときは、ふん尿中の窒素肥効も考慮して、施用上限量を遵守しましょう。

連絡先 Contact

酪農試験場
草地研究部 飼料環境グループ
0153-72-2004
konsen-agri@hro.or.jp